

「目的」 子どもの衣生活の実態に関する研究の一環として、今回は七・五・三の行事を取り上げ、祝着の選択方法、着用実態、七・五・三行事に対する親と子の意識等を明らかにしようとするものである。

「方法」 ①1990年秋に、東京都内と長野県内の幼稚園・保育園・小学校で5歳の男児、7歳の女児の母親（総計550名）を対象として行ったアンケート調査資料、②両地域における祝着の店頭調査資料、③神社参拝の現場における実態調査資料、以上の3種類の資料を用いて解析を行った。

「結果」 1)七・五・三祝いを行う者は全体の約96%であり、行事に対しての賛成意見も全体の約80%を占めており、七・五・三は一般の行事として定着していると考えられる。

2)子ども自身が着用したいと思う祝着は、女児の約80%が和服であるのに対し、男児の約70%が何を着るかに関心を示さない。これは店頭調査における販売者側の見方とも一致する。実際に着用する祝着は女児の約90%、男児の約60%が和服である。

3)祝着の調達方法については、新調が40%、お下がりやレンタル利用が60%である。また和服の場合には、祖父母による購入やレンタルに頼る率が高い。

4)M神宮参拝の現場では、祖父母をも同伴した参拝組が多くみられ（約50%）、子ども達自身も自分の晴れ着姿を喜んでいる様子がみられた（約70%）。

5)少産時代の子どもの衣生活について、いくつかの問題点を検討した。